

二〇一八年
履修の手引き
観光ビジネス学部

2018年

履修の手引き

観光ビジネス学部

秀明大学

秀明大学

学生番号

氏名

2018年4月1日発行

発行所 **秀明大学**

〒276-0003 千葉県八千代市大学町1丁目1番
電 話 047 (488) 2111 (代 表)
F A X 047 (488) 2295 (教務・学生課)

2018 年

履修の手引き
(観光ビジネス学部)

2018 年度入学生対象

【観光ビジネス学部 履修ガイド 目次】

2018年度以降入学 日本人学生編

1・観光ビジネス学部の目的	25
2・観光ビジネス学部を卒業するための要件	25
3・観光専門演習・観光専門演習プロジェクト・卒業論文	29
4・必修科目の単位認定にあたっての特例	29
5・履修制限	30
6・再履修	30
7・申告単位数の制限	31
8・業界で役立つ資格を在学中に取得する	32

2018年度以降入学 外国人留学生編

1・観光ビジネス学部の目的	34
2・観光ビジネス学部を卒業するための要件	34
3・観光専門演習・観光専門演習プロジェクト・卒業論文	37
4・履修制限	38
5・再履修	38
6・申告単位数の制限	39
7・業界で役立つ資格を在学中に取得する	40

1. 観光ビジネス学部の目的

- 1 観光ビジネス業界で活躍できる人材を育成する
- 2 国際感覚を持ち、高い語学力を身につける
- 3 経営学の視点から観光業界全体を見る力を養う
- 4 観光ビジネス業界で役立つ資格を取得する
- 5 体験学習を通じ、実践的な能力を磨く

2. 観光ビジネス学部を卒業するための要件

観光ビジネス学部生が学ぶ授業は大きく3つに分けられます。

【総合基礎科目および共通科目】

総合基礎科目は大学での学修に必要な知識と技術を学ぶ科目です。総合共通科目は文化・社会・自然を広く学び教養を磨くための科目です。

【専攻A群科目およびB群科目】

A群科目は高い英語力を身に付ける科目と、観光ビジネス学部の基幹科目です。B群科目は、より専門性の高い科目、資格に直結する科目です。

【専攻C群および演習科目群】

C群科目は外国文化、ホスピタリティ、経営など観光関連企業において求められる知識と実務能力を身に付ける科目です。演習科目は、研究室単位でのゼミナールへの参加、観光関連の業務体験など、自らが活動し学ぶ科目です。

これらの科目群毎に定められた必修科目と、各科目群で定められた数以上の単位を修得した学生に、卒業資格が与えられ学士号が授与されます。

【卒業までの総取得単位数、各科目群の所定単位数、必修科目】

単位とは大学の授業全てに定められている、学修の内容と分量を表す数です。卒業のために観光ビジネス学部が指定する科目から **124 単位以上** を取得しなければなりません。また、幾つかの科目群毎に卒業に必要な最低単位数が定められています。

学生は定められた内容を学修し、担当教員より単位取得認定を受けます。単位取得不可と認定された場合は、例え授業に出席していたとしても単位は与えられません。

必修科目は、卒業のために必ず単位を取得しなければならない科目です。必修科目の単位認定が不可となった場合は、翌学期以降に再履修を行う必要があります。以下に科目群と必要な単位を示します。

卒業するために取得しなければならない単位数・科目

科目群と各単位数	必修・準必修	選択	計
総合基礎科目・共通科目	40+2 準必	0 以上	42 以上
専攻 A 群科目	6	A 群+B 群 40 以上 (うち 14 単位は必修)	専攻科目全体 で 74 以上
専攻 B 群科目	8		
専攻 C 群科目	-	他に自由選択 8 単位	
専攻演習科目	12+2 準必		
計	66(必修)+4 (準必修)	46 以上	124 以上

科目群	必修科目	単位数
	準必修科目 (網掛け)	
総合基礎科目 (英語は選択必修)	英語資格演習 I～VI、英語コミュニケーション I・II、英語ライティング、英語リーディング (英語資格演習 VI のうち 2 単位は準必修)	16
	コンピュータ・リテラシー I	2
総合共通科目	総合教養演習 I・II・III	6
	日本近代史・日本現代史・心理学総論・思想史総論・世界近現代史・経済社会学総論・法政治学総論・ 地理学 国語表現法	16+2
専攻科目 A 群	観光概論 I・II	4
	観光ビジネス実務総論	2
専攻科目 B 群	観光地理学 I (1) (2)	4
	観光地理学 II (1) (2)	4
専攻演習科目	観光専門演習 I・II・III・IV・V・VI	12
	観光専門演習 VII	2

準必修科目は必修科目に準じる科目です。観光ビジネス学部生は履修しなければいけません。

ただし、その単位取得は卒業のための条件には含まれません。

【各学年の履修ガイド】

大学は 2 学期制を取っています。前期は 4 月に始まり 8 月初めに終わります。後期は 9 月末に始まり 2 月の半ばに終わります。英国 Chaucer College Canterbury 校への留学期間中に単位取得した科目は、全て大学の正規授業として単位認定されます。

履修ガイドを以下に示します。これを参考に履修を進めましょう。

履修ガイド

	必修科目	科目選択に関する アドバイス
	準必修科目	
1 年前期 (Chaucer College Canterbury 校)	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II 英語ライティング 英語リーディング 総合教養演習 I (1)	CCC 留学中に取得した単位はすべて観光ビジネス学部の単位として振替を行います。
1 年前期 (秀明大学 キャンパス)	観光概論 I 観光地理学 I (1) 総合教養演習 I (1) 心理学総論 日本近代史 英語コミュニケーション I コンピュータ・リテラシー I	必修・準必修科目を主に選択しましょう。 観光業界はコミュニケーション力が求められます。1 年次から準備を始めましょう。B 群の「サービスコミュニケーション論」が関連します (後述する接遇関連資格の欄を参照)。 2 年次での留学に備えて、英語科目を積極的に履修しましょう。
1 年後期	観光概論 II 観光地理学 I (2) 観光専門演習 I 総合教養演習 I (2) 日本現代史 思想史総論 日本近代史 心理学総論 コンピュータ・リテラシー I 地理学 (準必修) 英語資格演習 VI (観光英検)	必修・準必修科目を主に選択しましょう。 *2 年前期で再度英国留学を考える時期です。 1 年前期で CCC に留学した学生は、CCC で身につけた会話力をアップするために「 観光英会話 」を履修しましょう。 また、1 年前期で CCC に留学した学生は、後期は 日本近代史 と 心理学総論 を、2 年前期に留学する学生は、後期に 日本現代史 と 思想史総論 を履修することになります。 観光業界はコミュニケーション力が求められます。1 年次から準備を始めましょう。B 群の「サービスコミュニケーション論」が関連します (後述する接遇関連資格の欄を参照)。 2 年次に留学を予定している学生は、1 年次に履修する科目について担任と相談の上決めること。

	必修科目	科目選択に関する アドバイス
	準必修科目	
2 年前期 (Chaucer College Canterbury 校)	観光概論 I 観光地理学 I (1) 観光地理学 II (1) 観光専門演習 II 総合教養演習 II (1)	CCC 留学中に取得した単位はすべて観光ビジネス学部 の単位として振替を行います。 2 年前期で CCC に再留学する学生は、CCC で英語力 を一層確かな実力にしましょう。
2 年前期 (秀明大学 キャンパス)	日本現代史 思想史総論 国語表現法 英語資格演習 VI (観光英検)	必修・準必修科目を確実に履修しましょう。 1 年前期で CCC に留学した学生は、2 年前期に 日本 現代史 と 思想史総論 を履修することになります。 専攻科目 A・B 群から選択科目を履修しましょう。 観光ビジネス英語 I～IV 等の英語科目を履修し、仕 事で活用できる英語力を目指しましょう。
2 年後期	観光地理学 II (2) 観光ビジネス実務総論 観光専門演習 III 総合教養演習 II (2) 世界近現代史 経済社会学総論 国語表現法	必修・準必修科目を確実に履修しましょう。 専攻科目 A・B 群の選択科目を履修しましょう。 観光ビジネス英語 I～IV 等の英語科目を履修し、仕 事で活用できる英語力を目指しましょう。2 年前期 で CCC に再留学した学生は英語力を一層確かな実力 にしましょう。 社会で役立つコミュニケーション力を高めるため、 秘書検定にも挑戦しましょう。C 群の「 秘書実務 」 が関連します（後述する接遇関連資格の欄を参照）。 旅行業関連の国家資格取得を目指す学生は、3 年次 での受験に向けて準備を進めましょう。関連する科 目が B 群にあります（後述する国家資格欄を参照） 必修科目の履修状況をチェックしましょう。
3 年前期	英語資格演習 III 観光専門演習 IV 総合教養演習 III (1) 法政治学総論	3 年次からは本格的に社会的自立を意識して、実践 的な勉強をさらに進めましょう。 観光専門の英語科目、接遇関連科目、経営関連科目 の履修を進めましょう。 社会で活かせる様々な 資格取得 を目指し、関連する 科目の履修を進めましょう。就職活動にも有利に働 きます関連する科目が B 群、C 群にあります（後述 する資格の欄を参照）。 必修科目の履修状況をチェックしましょう
3 年後期	観光専門演習 V 総合教養演習 III (2)	引き続き観光専門の英語科目、接遇関連科目、経営 関連科目の履修を進めましょう。 社会で活かせる様々な 資格取得 を目指し、関連する 科目の履修を進めましょう。関連する科目が B 群、 C 群にあります（後述する資格の欄を参照）。
4 年前期	観光専門演習 VI	学修の総仕上げとして、卒業論文あるいは 観光専門 演習プロジェクト を履修登録しましょう。 観光ビジネス研究演習（論文作成指導科目）を履修 しましょう。
4 年後期	観光専門演習 VII	引き続き資格取得を目指しましょう。

3. 観光専門演習・観光専門演習プロジェクト・卒業論文

観光ビジネス学部所属した学生（日本人学生）は1年後期から観光専門演習を履修し、各教員の指導の下与えられたテーマに関する調査研究、観光関連の実習など実践的な学修を行います。観光専門演習は必修・準必修科目です。

観光専門演習において行った学修や、観光関連のボランティア活動などの成果を単位認定する科目が**観光専門演習プロジェクト**です。この科目は後期に履修登録することができます。履修登録に当たっては観光専門演習の指導教員の許可が必要です。また、卒業論文同様4年次後期に履修登録をする必要があります。観光専門演習プロジェクト希望者は、観光ビジネス研究演習（2単位）の履修を奨励します。

卒業論文の作成指導は4年次の観光専門演習において行います。4年次後期に卒業論文の履修登録を行い、別途定める「卒業論文作成要領」に従って作成した卒業論文を、所定の締め切り日までに提出します。卒業論文作成希望者は、観光ビジネス研究演習（2単位）の履修を奨励します。

4. 必修科目の単位認定にあたっての特例

選択必修科目の英語資格演習 I～V の単位認定については、次の特例があります。

- TOEIC 520 点以上または英検 2 級を取得している場合は、英語資格演習 I, II, III のうち 2 単位を認定する。
- TOEIC 750 点以上または英検準 1 級を取得している場合は、英語資格演習 I, II, III, IV, V のうち 4 単位を認定する。

したがって、該当する学生はこれらの授業を履修せずに単位を取得することができます。これらの資格試験を本学以外の場所において受験した場合は、特例を受けるにあたって資格を証明する書類を教務課に提出する必要があります。

5. 履修制限

各学期の開講科目の一部に、教室の収容人数等の理由により、履修制限を設ける場合があります。履修制限の可能性のある科目は以下の通りです。なお、この他にも制限が設けられる場合がありますので、履修登録にあたっては注意してください。

履修制限が設けられる可能性のある授業

科目	履修制限の内容
総合基礎科目の情報系科目	履修人数に制限があります。
A 群科目の「観光英会話」	レベル別に別途担当教員が定める履修制限があります。必ずガイダンスに出席し、指示を受けること。

ここに挙げた科目以外にも履修制限が科せられる場合があります。各学期の履修登録時には注意が必要です。ただし、履修制限を受けた場合、履修登録を修正し、該当する時間に他の授業を履修することが可能です。

6. 再履修

必修科目の単位認定が不可であった場合は、卒業するために翌学期以降に再び同じ科目を履修し、単位取得可の認定を受けなければなりません。これを再履修と呼びます。

必修教養科目・必修英語・総合教養演習など指定クラスにおいて履修を行う必修科目には、再履修専用クラスが用意される場合があります。これとは別に通常の学期内に指示されたクラスにおいて再履修を行う場合もあります。

必修の演習科目の単位を履修出来なかった場合、再履修に関しては必ず担当教員と相談するようにしましょう。

必修科目の単位認定が不可であった場合でも、新年度を迎えれば学年は進みます。この場合、新年度の必修科目と再履修科目が同じ時間に重複する場合があります。この場合はどちらかの必修科目を次年度以降に履修することになります。

このため必修科目の単位取得が順調に進まない場合、4年間で卒業できない可能性もあります。必修科目の単位取得を心掛けましょう。

7. 申告単位数の制限

3年生までの各学期に申告できる単位数には上限があります。上限は23単位です。ただし、申告単位数の上限は既に取得した総単位数に従って緩和されます。

- 1年生後期：23単位
- 2年生前期：取得単位9単位以下の学生の上限は33単位から取得単位数を引いた単位数
- 2年生後期：取得単位31単位以下の学生の上限は55単位から取得単位数を引いた単位数
- 3年生前期：取得単位53単位以下の学生の上限は77単位から取得単位数を引いた単位数
- 3年生後期：取得単位75単位以下の学生の上限は99単位から取得単位数を引いた単位数

4年生には上限がありません。

8. 業界で役立つ資格を在学中に取得する

観光ビジネス学部では旅行業、航空業界、ホテル業界、鉄道業界などで共通して役立つ資格の取得を目指しています。それぞれの資格のための科目が設定されていますので、計画的に取得できるように履修科目を選びましょう。

*英語資格

TOEIC

年10回実施されます。合否ではなく個々人のレベルを現す数字として結果が出ます。観光ビジネス業界で求められるスコアは600点以上ですが、まずは基礎的なスコアとして500点以上を目指しましょう。

特に航空会社は入社試験においてスコア証明書を求められますので、3年次11月ごろまでに外部受験をして下記のスコア以上を目指しましょう。

国内航空会社	客室乗務員	600点以上
	グランドスタッフ	550点以上
	総合職	600点 or 700点以上
外国航空会社	客室乗務員	700点以上
	グランドスタッフ	700点以上

実用英語検定

年3回実施されます。基礎レベルとしての2級合格を目指しましょう。TOEIC400点以上であれば英検2級に合格する可能性が高く、TOEICの学習と平行して取得を目指すことが望ましいです。旅行会社、ホテルなどの業界は英語の基礎力を示す英検2級を求めています。(2級は学内受験が可能な回があります。)

観光英語検定

年2回実施されます。観光ビジネス学部の学生として専門的な英語の知識を生かすために3級、2級の合格を目指します。地理、歴史の知識を求められることも多く、学んだ専門知識が発揮できる英語検定でもあります。(外部会場にて受験)

*国家資格

旅行業務取扱管理者

旅行業務全般を取り扱う国家資格です。旅行業務取扱管理者は旅行会社の支店、営業所の責任者として旅行業務を取り扱う際に必要とされる国家資格です。国内旅行のみを取り扱うことのできる「国内旅行業務取扱管理者」、海外旅行も取り扱うことのできる「総合旅行業務管理者」の二種類があります。旅行業法で旅行会社はこの「旅行業務取扱管理者」を支店・営業所ごとに1人以上(社員10人以上は複数)選任することを義務づけられています。従って旅行業界の就職・転職に有利な資格です。また、旅行会社以外の航空会社社員やホテル関連社員なども積極的に取得を目指す資格です。

なお、ツアーコンダクターの資格としての旅程管理者資格とは全く異なりますので注意してください。

本学では2年次～3年次にまず国内旅行業務取扱管理者資格を目指し、3年次～4年次に総合旅行業務管理者資格取得を目指すよう指導しています。1年次、2年次における添乗員体験ツアーが生きる国家資格です。大いにチャレンジしましょう。

*接遇関連資格

サービス接遇検定

観光業は接客業務でもあり、多くのお客様に接する仕事です。秘書検定から接遇に特化した検定として誕生した検定であり、すでに15年近くの歴史があります。3級、2級は比較的合格しやすく、それぞれ75%、65%以上の合格率です。

ただし、準1級は2級合格が前提となる級であり、1級は合格率が20%程度とかなり厳しくなります。本学では準1級保有者は相当数に上り、1級を目指す学生もいます。年2回実施されます。本学では学内受験も可能です。

検定に対応した科目は「サービスコミュニケーション論」です。B群科目ですが1年次から履修することを推奨します。インターンシップ希望者は履修する必要があります。

秘書検定

過去100回以上実施され、日本で最も歴史があり、企業からの信頼度が高いビジネス系検定です。本学ではまず2級(あるいは3級)取得を目指し、さらに準1級合格を目指します。すでに多くの学生が準1級に合格しており、大手企業に就職しています。またビジネス系検定の中では合格が厳しい(3級60%、2級60%、準1級30%、1級30%前後、2018年2月現在)ことでも有名ですが、それだけに資格保有者に対する企業の期待・信頼は絶大といえます。年3回実施されます(学内受験が可能な回・級があります)。

検定に対応した科目は「秘書実務」です。C群科目ですが2年生から履修することを推奨します。インターンシップ希望者は履修する必要があります。

観光ビジネス学部 履修ガイド

2018年度以降入学 留学生編

1. 観光ビジネス学部の目的

- 1 観光ビジネス業界で活躍できる人材を育成する
- 2 国際感覚を持ち、高い語学力を身につける
- 3 経営学の視点から観光業界全体を見る力を養う
- 4 観光ビジネス業界で役立つ資格を取得する
- 5 体験学習を通じ、実践的な能力を磨く

2. 観光ビジネス学部を卒業するための要件

観光ビジネス学部生が学ぶ授業は大きく3つに分けられます。

【日本語科目】

大学での学修や将来の就職に必要な日本語力を育成する科目です。日本語科目は総合基礎科目・総合共通科目・専攻科目の全ての群に振替えることができます。

【総合基礎科目および共通科目】

総合基礎科目は大学での学修に必要な知識と技術を学ぶ科目です。総合共通科目は文化・社会・自然を広く学び教養を磨くための科目です。

【専攻 A 群科目および B 群科目】

A 群科目は高い英語力を身に付ける科目と、観光ビジネス学部の基幹科目です。B 群科目は、より専門性の高い科目、国家資格に直結する科目です。

【専攻 C 群および演習科目群】

C 群科目は外国文化、ホスピタリティ、経営など観光関連企業において求められる知識と実務能力を身に付ける科目です。演習科目は、研究室単位でのゼミナールへの参加、観光関連の業務体験など、自らが活動し学ぶ科目です。

これらの科目群毎に定められた必修科目と、各科目群で定められた数以上の単位を修得した学生に、卒業資格が与えられ学士号が授与されます。

【卒業までの総取得単位数、各科目群の所定単位数、必修科目】

単位とは大学の授業全てに定められている、学修の内容と分量を表す数です。卒業のために観光ビジネス学部が指定する科目から 124 単位以上 を取得しなければなりません。また幾つかの科目群毎に卒業に必要な最低単位数が定められています。

学生は定められた内容を学修し、担当教員より単位取得認定を受けます。単位取得不可と認定された場合は、例え授業に出席していたとしても単位は与えられません。

必修科目は、卒業のために必ず単位を取得しなければならない科目です。必修科目の単位認定が不可となった場合は、翌学期以降に再履修を行う必要があります。

日本語科目の 20 単位は必修です。これらの日本語科目必修単位は総合（基礎・共通）科目と専攻科目にそれぞれ振替えることができます。ただし、必修科目の単位に振替えることはできません。また、日本語科目を他の科目群に振り替える場合は、各科目群の必要単位数を必ず確認すること。

卒業するために取得しなければならない単位数・科目

科目群と各単位数	必修	選択必修	選択	計
日本語科目	20	-		20 以上
総合基礎科目・共通科目	8	有		42 以上
専攻 A 群科目	6	-	・A 群・B 群 40 以上（必修 14 単位を含む）	74 以上
専攻 B 群科目	8	-		
専攻 C 群科目	-	-		
専攻演習科目	-	有		
その他の自由選択科目	-	-		8 以上
計	42	1		124 以上

科目群	必修科目	単位数
	準必修科目（網掛け）	
日本語科目	日本語 A・B・C・D	16
	現代日本社会 I II	4
総合基礎科目	コンピュータ・リテラシー I	2
総合共通科目	総合教養演習 I・II・III	6
	日本文化論 I	2
専攻 A 群科目	観光概論 I・II	4
	観光ビジネス実務総論	2
専攻 B 群科目	観光地理学 I (1) (2)	4
	観光地理学 II (1) (2)	4

準必修科目は必修科目に準じる科目です。観光ビジネス学部生は履修しなければいけません。ただし、その単位取得は卒業のための条件には含まれません。

【各学年の履修ガイド】

大学は2学期制を取っています。前期は4月に始まり8月初めに終わります。後期は9月末に始まり2月の半ばに終わります。

履修ガイドを以下に示します。これを参考に履修を進めましょう。

	必修科目／準必修科目	科目選択に関する アドバイス
1年前期	日本語 A I 日本語 B I コンピュータリテラシー I 総合教養演習 I (1) (日本文化論 I)	日本語の必修科目を必ず履修しましょう。 総合基礎・総合共通科目を履修しましょう。 前期に日本文化論を履修するよう指定されたクラスの学生は履修しましょう。
1年後期	日本語 A II 日本語 B II 総合教養演習 I (2) (日本文化論 I)	引き続き日本語 A B を履修しましょう。 総合共通科目を2科目以上履修しましょう。 観光専門科目を履修し始めましょう。 後期に日本文化論を履修するよう指定されたクラスは履修しましょう。
2年前期	日本語 C I 日本語 D I 現代日本社会 I 観光概論 I 観光地理学 I (1) 総合教養演習 II (1)	日本語 C D を履修しましょう。 総合共通科目を2科目履修する 「 <u>現代日本社会 I, II</u> 」は2014年度入学生より「 <u>日本事情 I, II</u> 」が名称変更した科目です。 <u>必修科目</u> なのでしっかりと勉強しましょう。 B 群、C 群科目の履修を始めましょう。 国家試験科目の履修するために、日本語を十分に理解できるようになりましょう。
2年後期	日本語 C II 日本語 D II 現代日本社会 II 観光概論 II 観光地理学 I (2) 総合教養演習 II (2)	日本語の学修を継続しましょう。 観光専門科目を履修しましょう。 B 群、C 群科目の履修を進めましょう。 <u>必修科目の履修状況を確認しましょう。</u> 国家試験科目の履修を「 <u>旅行業務取扱管理者演習 I (1)</u> 」から始めましょう。 国家資格科目は履修しやすい科目から始めましょう。 インターンシップを目指す学生は <u>サービスコミュニケーション論</u> を履修し始めましょう。

3年前期	観光ビジネス実務総論 観光地理学 II (1) 総合教養演習 III (1)	国家試験科目を履修する場合は、「 <u>旅行業務取扱管理者演習 I (2)</u> 」を履修しましょう。 B 群、C 群科目の履修を進めましょう。
3年後期	観光地理学 II (2) 総合教養演習 III (2)	<u>必修科目の履修状況を確認しましょう。</u> 日本語科目の「日本語 E」、「日本語資格演習 I」、「日本語資格演習 II」、「ビジネス日本語」、「上級日本語会話」は、いずれも選択科目になります。積極的に受講することをお勧めします。
4年前期	4年前期履修科目	専攻科目演習群の「 <u>観光専門演習 VI</u> 」、「 <u>専門研究演習 III</u> 」、総合共通科目の「 <u>総合教養演習 IV (1)</u> 」のいずれか1科目が選択必修となります。
4年後期	* 観光専門演習 VI * 専門研究演習 III * 総合教養演習 IV (1)	

*は選択必修科目で、()は準必修科目です。

3. 観光専門演習・観光専門演習プロジェクト・卒業論文

観光専門演習は教員指導の下、与えられたテーマに関する調査、観光関連の実習など実践的な学修を行う演習です。

観光専門演習において行った学修や、観光関連のボランティア活動の成果を単位認定する科目が観光専門演習プロジェクトです。この科目は後期に履修登録することができます。履修登録に当たっては観光専門演習の指導教員の許可が必要です。

卒業論文の作成指導は観光専門演習 VI・VIIにおいて行います。4年次後学期に卒業論文の履修登録を行い、別途定める「卒業論文作成要領」に従って作成した卒業論文を、所定の締め切り日までに提出します。

これらの科目は選択科目です。履修のためにはゼミ担当教員の許可が必要となります。

4. 履修制限

各学期の開講科目の一部に、教室の収容人数等の理由により、履修制限を設ける場合があります。履修制限の可能性のある科目は以下の通りです。なお、この他にも制限が設けられる場合がありますので、履修登録にあたっては注意してください。

履修制限が設けられる可能性がある授業

科目	履修制限の内容
総合基礎科目の情報科目	履修人数に制限があります。

ここに挙げた科目以外にも履修制限が科せられる場合があります。各学期の履修登録時には注意が必要です。ただし、履修制限を受けた場合、履修登録を修正し、該当する時間に他の授業を履修することが可能です。

5. 再履修

必修科目の単位認定が不可であった場合は、卒業するために翌学期以降に再び同じ科目を履修し、単位取得可の認定を受けなければなりません。これを再履修と呼びます。

日本語科目・総合教養演習など指定クラスにおいて履修を行う必修科目には、再履修クラスが指示される科目があります。この場合は指示されたクラスにおいて再履修を行います。

必修の演習科目の単位を履修出来なかった場合、再履修に関しては必ず担当教員と相談するようにしましょう。

必修科目の単位認定が不可であった場合も新年度を迎えれば学年は進みます。この場合、新年度の必修科目と再履修科目が同じ時間に重複する場合があります。この場合はどちらかの必修科目を次年度以降に履修することになります。

このため必修科目の単位取得が順調に進まない場合、4年間で卒業できない可能性もあります。必修科目の単位取得を心掛けましょう。

6. 申告単位数の制限

3年生までの各学期に申告できる単位数には上限があります。上限は23単位です。ただし、申告単位数の上限は既に取得した総単位数に従って緩和されます。

- 1年生後期：23単位
- 2年生前期：取得単位9単位以下の学生の上限は33単位から取得単位数を引いた単位数
- 2年生後期：取得単位31単位以下の学生の上限は55単位から取得単位数を引いた単位数
- 3年生前期：取得単位53単位以下の学生の上限は77単位から取得単位数を引いた単位数
- 3年生後期：取得単位75単位以下の学生の上限は99単位から取得単位数を引いた単位数

4年生には上限がありません。

7. 業界で役立つ資格を在学中に取得する

観光ビジネス学部では旅行業、航空業界、ホテル業界、鉄道業界などで共通して役立つ資格の取得を目指しています。それぞれの資格のための科目が設定されていますので、計画的に取得できるように履修科目を選びましょう。

*日本語資格

1. 日本語能力試験 (Japanese Language Proficiency Test: JLPT)

認定団体：財団法人日本国際教育支援協会・独立行政法人国際交流基金
等級・称号：N1～N5

1984年に開始。最上級は1級(N1)、最下級は4級(N4)であり、年2回受験可能。
2015年現在世界69カ国75万人が受験。全て4択のマークシート様式で実施され、日本語を母語としない外国人が日本語を学習するカリキュラムに基準を合わせています。日本の企業は外国人を採用する場合、N1資格保有を強く希望します。

NPO法人日本語検定委員会実施の日本語検定は主として日本語母語話者を対象としているため、上記の日本語能力検定とは全く別の検定であるため注意すること。

2. ビジネス日本語能力テスト (BJT)

ビジネスで求められるコミュニケーション能力を測る試験で、年1～2回実施。満点が800点で、得点に応じて、高い順にJ1+～J5の6段階のレベルで評価されます。企業における採用や昇進・昇格・昇給の参考条件として活用されています。

*英語資格

TOEIC

年10回実施されます。合否ではなく個々人のレベルを現す数字として結果が出ます。観光ビジネス業界で求められるスコアは600点以上ですが、まずは基礎的なスコアとして500点以上を目指しましょう。

特に航空会社は入社試験においてスコア証明書を求められますので、3年次11月ごろまでに外部受験をして下記のスコア以上を目指しましょう。

国内航空会社	客室乗務員	600点以上
	グランドスタッフ	550点以上
	総合職	600点 or 700点以上
外国航空会社	客室乗務員	700点以上
	グランドスタッフ	700点以上

*N1を保有していても、共通言語としての英語力は必ず求められます。

実用英語検定

年3回実施されます。基礎レベルとしての2級合格を目指しましょう。TOEIC400点以上であれば英検2級に合格する可能性が高く、TOEICの学習と平行して取得を目指すことが望ましいです。旅行会社、ホテルなどの業界は英語の基礎力を示す英検2級を求めています。(2級は学内受験が可能な回があります。)

観光英語検定

年2回実施されます。観光ビジネス学部の学生として専門的な英語の知識を生かすために3級、2級の合格を目指します。地理、歴史の知識を求められることも多く、学んだ専門知識が発揮できる英語検定でもあります。(外部会場にて受験)

*国家資格

旅行業務取扱管理者

旅行業務全般を取り扱う国家資格です。旅行業務取扱管理者は旅行会社の支店、営業所の責任者として旅行業務を取り扱うのに必要な国家資格です。国内旅行のみを取り扱うことのできる「国内旅行業務取扱管理者」、海外旅行も取り扱うことのできる「総合旅行業務管理者」、の二種類があります。旅行業法で旅行会社はこの「旅行業務取扱管理者」を支店、営業所ごとに1人以上(社員10人以上は複数)選任することを義務付けられています。従って、就職・転職にも非常に有利な資格です。また、旅行会社以外の航空会社社員なども積極的に取得を目指す資格です。観光業に携わる者はさまざまな分野で知識が求められるため、多くの業界人がこの資格の取得を目指しています。

なお、ツアーコンダクターの資格としての旅程管理者資格とは全く異なりますので注意してください。

本学では2年次～3年次にまず国内旅行業務取扱管理者資格を目指し、3年次～4年次に総合旅行業務管理者資格取得を目指すよう指導しています。留学生には特に資格取得を目指すことを勧めます。

国家資格希望者は必ず学部ガイダンス、科目ガイダンスで十分な説明を受けることが必要です。

* 接客関連資格

サービス接客検定

観光業は接客業務でもあり、多くのお客様に接する仕事です。秘書検定から接客に特化した検定として誕生した検定であり、すでに15年近くの歴史があります。3級、2級は比較的合格しやすく、それぞれ75%、65%以上の合格率です。

ただし、準1級は2級合格が前提となる級であり、1級は合格率が20%程度とかなり厳しくなります。本学では準1級保有者は相当数に上り、1級を目指す学生もいます。年2回実施されます。本学では学内受験も可能です。

検定に対応した科目は「サービスコミュニケーション論」です。B群科目ですが2年生から履修することを推奨します。留学生を対象とした「サービスコミュニケーション論」を履修することを勧めます。

秘書検定

過去100回以上実施され、日本で最も歴史があり、企業からの信頼度が高いビジネス系検定です。本学ではまず2級（あるいは3級）取得を目指し、さらに準1級合格を目指します。すでに多くの学生が準1級に合格しており、大手企業に就職しています。またビジネス系検定の中では合格が厳しい（3級60%、2級60%、準1級30%、1級30%前後、2018年2月現在）ことでも有名ですが、それだけに資格保有者に対する企業の期待・信頼は絶大といえます。年3回実施されます（学内受験が可能な回・級があります）。

検定に対応した科目は「秘書実務」です。C群科目ですが3年生から履修することを推奨します。